

「再編計画の延期は必至」「再編原案への反対ではない」

「県立高校の統廃合を考える会」は、10月12日に県議会が採択した「県立高校の再編に関する決議」について、声明を発表しました。

本日の「県立高校の再編に関する決議」について

本日、県議会は自民党が提案した「県立高校の再編に関する決議」を全会一致で採択しました。

再編計画づくりの延期は必至

決議は「今年度内の計画策定という方針に拘泥することなく、少なくとも今後1年以上の時間をかけ…」と計画づくりの延長を求めています。県行政の「今年度中に再編計画を策定し平成26年度から実施する」との強硬姿勢に、議会がストップをかけた形です。これで、再編計画づくりの延期は必至となりました。昨年度に続く2年連続の計画延長は、県行政にとって大きな打撃です。また決議は「このまま、県民や市町の理解を得ることなく事を進めることがあれば、子どもと地域の将来に禍根を残す。慎重な検討と生徒や県民への説明、理解を十二分に得るように」と、県民の理解を得た上での決着を求めています。この決議採択の背景には、昨年来の全県的なとり組み、具体案が示されて以降の3地域の急速な運動の盛り上がり、これらを踏まえた市議会の動き、「10・1県民のつどい」の成功などがあります。県民・地域住民の声が議会を動かしたといえます。

再編原案そのものに反対している訳ではない

しかし、この決議の採択によって「長浜北高校と彦根西高校の廃校、信楽高校の分校化、北部定時制の廃止」などの再編原案が白紙に戻ったわけではありません。また、現時点で、各党派とも、再編計画原案そのものに反対している訳ではありません。県民の納得を得るために「時期を延長する」ことを眼目とした決議です。このままでは、実施時期を遅

らせて、多少の手直しをして、ほぼ原案通り実施する可能性が高いと見られます。

新しい合流の力に確信を

それでも、「原案の白紙撤回と根本的な再検討」を含みうるこの決議案に、再編原案賛成の立場に立つ議員も賛成せざるを得ませんでした。ここに、私たちの運動と県民・地域住民の思いが合流した新しい力の大きさが表れています。県知事と教育長は、この県民・地域住民の思いを真摯に受け止めるべきです。

道理のない再編計画は白紙撤回に 10万人の署名を

今後の成り行きは予断を許しませんが、再編計画の中止か全県的な統廃合の推進か、熾烈なせめぎ合いの状態にあることは事実です。私たちと地域住民が一緒につくってきた「地域の高校を守る」点での合流の力に確信を持って、11月までに10万人の署名を達成し、道理のない再編計画を白紙撤回に追い込み、真に魅力と活力ある学校づくりの条件整備に向けて奮闘するものです。

2011年 10月12日

県立高校の統廃合を考える会

ストップ高校統廃合速報 2011年度第28号

2011/10/13 県立高校の統廃合を考える会

077-522-4965 FAX 077-522-4978

(掲示・増し刷り・回覧などで全教職員にお知らせください)